

あの頃の風景

山陽道編 第1回

海陸交通の要衝として発展したまち 「下関市」

株式会社千代田コンサルタント/東日本事業部/道路部/道路課
中島知彦 NAKAJIMA Tomohiko (会誌編集専門委員)



① 明治34年に山陽鉄道の馬関駅として開業した旧下関駅

関門海峡の北岸に面し本州の最西端に位置する下関市は、山口県で最大、中国地方で5番目の人口約30万人を擁し、2005(平成17)年10月に中核市に指定されている。1889(明治22)年4月に赤間関市として発足し、1902(明治35)年6月に現市名の下関市となった。

下関市には、源平合戦が繰り広げられた壇之浦や宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行われた巖流島がある。さらには奇兵隊を創設した高杉晋作の活躍の舞台、明治維新ゆかりの地であることや日清講和条約が調印された場所などで、日本史における数々の重要な出来事に関係が深い都市である。昭和に入ると、全国一の水揚げ高を記録するなど「水産都市」のイメージがある。しかし、現在は水産業だけでなく、工業・商業・農業・観光などにも力を入れ「多機能都

市」となっている。

下関は関門海峡を挟んで九州と対峙する位置にあることから、古来、海陸交通の要衝であった。それは、山陽道(西国街道)の終点であり山陰道との結節点でもあることや、江戸時代から北前船(西廻り航路)の経由地であったことから伺える。

陸上交通の発展は、1901(明治34)年に山陽鉄道の開通に始まり、1914(大正3)年に開通した長州鉄道や1918(大正7)年に開通した長門鉄道に至る。また、市内には1926(大正15)年に路面電車が開通し、「チンチン電車」の愛称で市民に親しまれ、駅や停留所周辺を中心に賑わいを見せていた。

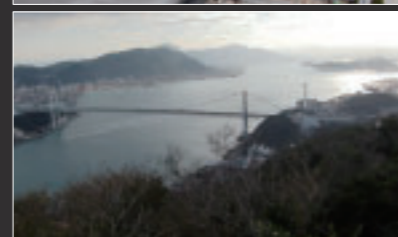
一方、海上交通は、1905(明治38)年の関釜連絡船就航により朝鮮半島への玄関口となっていたが、太平洋戦争の激化に伴い一時閉鎖された。しかし、



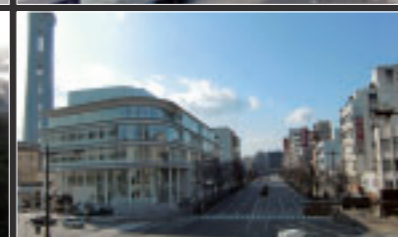
②(上) 昭和28年の唐戸電停。路面電車が行き交っており当時の中心地であった
③(右) 現在も市内自動車交通の一大要所であり、交差点に位置する唐戸バス停は市内を運行する路線バスの拠点停留所の一つとなっている



⑥(下) 昭和31年、瀬戸内海国立公園に編入された火の山からの眺め。公園になる前は砲台が設置されており、市民の立ち入りは禁止されていた
⑦(右) 昭和48年に関門橋が完成し、関門海峡の景色が一変した



④(上) 昭和10年代の関釜連絡船。1年間に約280万人の乗客を輸送していた
⑤(左) 戦争によって閉鎖された関釜連絡船が昭和45年に現在の関釜フェリーとして再開。昭和63年からは毎日1便が就航している



⑧(下) 昭和40年頃の国道9号。路面電車・三輪車・四輪車・オートバイが行き交っていた
⑨(左) 左に見えるのが下関のシンボルとなっている海峡ゆめタワー。開業当初の下関駅はこの付近に位置していた



1970(昭和45)年に関釜フェリーとして再開した。下関駅北側のグリーンモール商店街一帯には多くの韓国・朝鮮系住民が居住したことで、コリアンタウンとして賑わいを見せている。

交通の要衝として発展した下関だが、本州と九州を結ぶ関門橋や関門トンネルの開通に伴い、航路以外での九州との連絡路が整備されると、かつての要衝としての機能は小さくなった。だが、九州との距離が縮まったことにより、対岸の北九州市門司区付近との連携・交流は盛んになった。毎年8月に開催される「海峡花火大会」などのイベントを共同開催することで、下関市と門司区周辺による関門都市圏を形成しようとする動きもあり、新たな街づくりを目指している。

2005(平成17)年に下関市は近隣の4町と合併し、かつての要衝としてではなく「自然と歴史と人が織り

成す交流都市」を目指して新たに歩み始めている。また、今後は関門都市圏構想が実現することにより、近い将来は「関門市」として、あるいは「関門テーマパーク」なる都市圏を形成し、今までにない都市に発展することを期待せずにはいられない。

<参考資料>

- 1) 「下関市史(市制施行～終戦)」下関市史編修委員会 昭和58年3月
- 2) 「下関市史(終戦～現在)」下関市史編修委員会 平成元年3月
- 3) 「下関市史 しものせきなつかしの写真集」下関市史編修委員会 平成7年3月
- 4) 「図説 下関の歴史」郷土出版社 平成17年12月

<取材協力・資料提供・撮影協力>

- 1) 下関市役所総合政策部広報広聴課
- 2) 下関市役所下関市史編修室
- 3) 下関市役所都市整備部再開発推進室
- 4) 下関グランドホテル
- 5) 関釜フェリー株式会社

<写真提供>

- 写真①、②、④、⑥、⑧ 参考資料3
写真③、⑤、⑦、⑨ 中島知彦